

月刊「在宅新療 0-100」2019年7月号 訂正のお知らせ

月刊『在宅新療 0-100』2019年7月号（連載「COCOALIFE；ココア習慣のすすめ」第8回，p.692-694）におきまして、下記の通り訂正箇所がございますので、お知らせ申し上げます。

お客様には多大なご迷惑をお掛けいたしましたこと、深くお詫び申し上げます。

【訂正箇所】

p.692

*右段・上から2行目

誤：ころに発見

正：ころより研究し，発見

p.693

*左段・上から1行目～

誤：実際の研究²⁾は高血圧をきたしやすいラットの一種を使っています。生後5週までは通常飼料で飼育し，その後2つの群に分け，6～13週まで以下の飼料で飼育します。対照群はNa含有飼料，ココア群はNa含有飼料にココア0.25%を添加したもので，13週まで飼育して脳の血管を調べてみました。

正：最初の研究は，ココアを2.5%添加した餌でラット（Wister Rat）を寿命に近い85週間飼育しました²⁾。対照群はココアを添加しない通常の餌で同じ期間飼育しました。

*左段・上から12行目

誤：実際に，

正：さらに，高血圧を来たしやすいラットの一種を使った試験³⁾では，生後5週までは通常飼料で飼育し，その後2つの群に分け，6～13週まで以下の飼料で飼育します。対照群はNa含有飼料，ココア群はNa含有飼料にココア0.25%を添加したもので13週まで飼育して脳の血管を調べてみました。

*左段・上から14行目

誤：高齢ラットでも

正：ココア添加群では

***文献を変更**

正: 1) Mato M, Ookawara S, Aikawa E, et al : Studies on fluorescent granular perithelium (F.G.P) of rat cerebral cortex especially referring to morphological changes in aging. Anat Anz 149 : 486-501, 1981.

2) 間藤卓 : 脳の老化抑制とカカオの話. 第9回チョコレート・ココア国際栄養シンポジウム, 2004.

3) Mato T, Kamei M, Ito R, et al : Beneficial effects of cocoa in perivascular Mato cells of cerebral arterioles in SHRSP (Izm) rats. J Clin Biochem Nutr 44(2) : 142-150, 2009.

***文献変更に伴い、本論文内の図の出典を変更**

正: 図1・図2・図3ともに、文献2) より引用